聴解ディクテーションの「誤聴」分析

ー中・上級の文法の困難点を探るー

フォード　順子

要　　旨

知らないことばは聞き取れないとは一般に言われていることだが、われわれはつまるところ頭の中にある文法、意味、語彙、その他の言語外知識等の範囲内でしか、音の受容はできても聴解を行なうことはできない。中級Ⅰ聴解コースで、宿題としてスクリプトの部分ディクテーションを課してきたが、本稿では、その「誤聴」分析[1)]を足がかりとして、中・上級の文法の困難点[2)]を探ってみた。

〔キーワード〕　「誤聴」分析　　部分ディクテーション　　聴解
中・上級の文法　　話しことば

1．はじめに

筑波大学留学生センターの補講コースでは、中級Ⅰ、中級Ⅱ、上級コースにおいて独立した聴解のクラスがある[3)]。筆者は、90年春期コースから91年春期コースまでの３コースにわたって、中級Ⅰの聴解クラスを担当してきた。１コースは週１コマ（75分）、15週で、そのうち前半の７、８回分では、テレビドラマを取り上げ、後半ではニュース番組の特集などを扱った。いずれも、授業後に宿題としてスクリプトの部分ディクテーションを課した。そのチェックをしていくうちに、学生が苦手とする文型、表現がいくつか見えてきた。その場その場でのフィードバックで終わってしまいがちな授業の反省から、どういう表現が聞けないでいるのか、何につまずいているのかを一度明らかにし、そしてそれらを強化すべく教え方を工夫する必要を感じ、学生のディクテーションの「誤聴」分析を行なうことにした。作文の誤用分析については、豊田（1976）、『日本語教育』34号（1978）、池田（1989）など、既にいくつかの研究があるが，ディクテーションに関しては、神田他（1991）がある以外は、あまりないように思う。ディクテーションは聞いて書き取るので、ないところから作り出す作文に比べて、一段やさしいはずであるが、しかし、学習者は自らの頭の中にある文法知識を使って聞き取るわけであり、従って、（文の）ディクテーションには学習者の持っている文法知識がそのまま反映されて出て来る[4)]。そこで、本稿では「誤聴」のうちの文法的誤りについての分析を足がかりとして、中・上級における文法上の困難な点を探ってみることにした。

2．中級Ⅰ聴解クラスの概要

2．1　学生

筑波大学留学生センターの中級Ⅰ聴解クラスを受けることのできる学生は、プレースメントテストを受けて中級Ⅰにプレースされた者、および中級Ⅱ、上級にプレースされた者のうちの希望者で、大半は中級Ⅰの者である[5)]。学習歴を見ると、大学等の教育機関（含、当センター）で勉強してきた者から自習によるものまで様々であるが、「中級」という名前が示すとおり、皆「初級」300時間は終わっているようである。同じ「中級Ⅰ」の学生でも、漢字という要素があるため、一般に非漢字圏の学生の場合には学習時間はより長いようである。全員が大学院生および大学院研究生、そして日本文化研究生で、国籍は、中国が最も多く、次いで台湾、韓国、他に、その他のアジア諸国、欧米、南米等様々である。専門も同様、文系から理系まで様々である。人数は、補講コースという性格上、ひとコースを通してかなりの増減があって、12、3人から50人ぐらいまでで、そのうちの宿題提出者は数人から35人程度であった。

2．2　教材

それぞれのコースで取り上げた教材は以下のようである[6)]。

90年春期コース：

テレビドラマ『指輪』[7)]

ニュース番組の特集『東京サラリーマン物語－通勤編－』[8)]

ニュース番組の特集『日本が危ない：人間嫌いの若者達』[9)]

90年秋期コース：

テレビドラマ『指輪』[7)]

ニュース番組の特集『日本が危ない：人間嫌いの若者達』[9)]

ニュース番組の特集『睡眠を科学する』[10)]

91年春期コース：

テレビドラマ『注文の多い料理店』[11)]

ニュース番組の特集『東京サラリーマン物語－通勤編－』[8)]

テレビニュース[12)]

ニュース番組の特集『子供が危ない：いま、何時？』[13)]

ニュース番組の特集「子供が危ない：非行は飲み物が原因？？」[14)]

なお、授業で1回に視聴する長さは6分程度で、教材の内容理解を中心に、社会、文化、習慣、

考え方といったその背景にあるもの、そして一方で、そこに使われている文型、表現等を取り上げた。授業の進め方についての詳しい説明は本稿の目的ではないので省くが、特別に取り上げた箇所以外は、視聴はだいたい各２回行なった。

２．３　部分ディクテーション

２．２で述べた教材は、授業後、スクリプトの部分ディクテーションを宿題として与えた。学生は、ビデオから音声だけをテープに落としたものを各自コピーして持っており、分からなければ、何度でもテープを聞き返して宿題をやってくる。語彙リストは予め渡してあるが、ディクテーションをさせた箇所は、語彙的に困難な部分を避けて、様々なテキスト（ドラマであろうと、ニュースであろうと、大学の講義であろうと）に共通すると思われる、いわゆる文型と考えられるような表現等を中心に選んだ。語彙部分は何を聞くかによって変わってくる変数部分であり、一方、文型等はあらゆるものに共通する定数部分で、できる限りそこに的を絞った。定数部分は、われわれがよく知っている予測可能な部分であり、故に、実際の音を聞くというよりもむしろ頭で聞いている部分、少ない注意を払えば済む部分である。宿題のディクテーションは、一部を［資料１］として最後に載せておくが、例えば、下線部のようなところをディクテーションさせた。

１）食った気<u>しないんじゃないの</u>？
２）だから、<u>その時間になると</u>、ひとりだけどっかへ隠れちゃうとかですね。

また、ディクテーションをさせる箇所を決める際に、筆者自身テープを聞いてみて、学生にはちょっと音が聞き取りにくいのではないかと思ったところ（例えば、インタビューなどで普通の日本人が話しているところ。母語話者には何の問題もないが、）は避けた。ディクテーションの箇所以外は、何を言っているかをスクリプトの文字で確かめることができ、また、テープは何度でも聞くことができるので、ディクテーションをする際に、音の連続をどのように切って聴解を行なっていくか、まさにその人の文法知識が運用されるところである。

３．「誤聴」の分類と分析

学生の提出した部分ディクテーションはすべてコピーをとっておき、それを資料として「誤聴」の分類を試みた。誤用分析をする場合，ある特定の学生を何人か選んで、誤用を洗いざらい拾い出したり、あるいは何か特定の項目（助詞、副詞等）に着目して、それに関する誤用を拾い出すのが通常とられるやり方であるが、今回は、宿題を全回漏らさず提出した者が少ないことと、３期にわたる、また聞くものが異なっても共通する、全体の「誤聴」の傾向を知りたい、という二つの理由から、宿題提出者全員の部分ディクテーションを分析の資料とした。しかし、そうかと言って、多い時で35人ほどのあらゆる「聴解」全部を分類の対象にしていては、なかなか傾向もつかみにくい

ので、「誤聴」全部を拾った後に，その回の宿題提出者の全体数に占める「誤聴」の割合が半分以上のものを分類の対象とした。さらに、同じ種類の「誤聴」は、紙幅の都合上、全部をのせることはできないので、代表例だけにとどめておいた。

「誤聴」の分類にあたっては、文法の困難点を探るという視点に立って、まず、「誤聴」の起きている位置によって、大きく以下のように分けてみた。その後詳しく文法項目ごとに拾っていくことにする。また、手も足も出ないという場合であろうか、空白にしてあったケースも（特にレベルが下の学生の場合）たびたび見られたが、それも無答として誤りの中に含めた。

① 音の誤り
② 修飾部の誤聴
③ 接続部の誤聴
④ 文末部の誤聴
⑤ 取り立て助詞の誤聴
⑥ その他の誤聴

①の音の誤りには、促音、長音の脱落、音の清濁の誤りが見られた。また縮約形に関する誤りも、話しことばに慣れていないところからくるものとして、これに含めた。しかし、本稿では文法の「誤聴」に絞るので、ここではこれを取り上げない。

以下、②～⑥の「誤聴」を順番に見てゆくことにする。下線部が正しいもので、その下に「誤聴」の例（主なもの）を示す。また、Xは、そこで問題となっている文法項目を聞き落としていることを示す。

3．1　修飾部の誤聴

3．1．1　指示詞の誤聴

（1）　A：見たかったわ、出した作品。
B：そうしたかったんだけど、でき上がったの昼過ぎてたからね。うん、
<u>そんな暇なかったんだ</u>。
その　暇
その　日

（2）　<u>こんなものが来たんだけど</u>。
ほんのもの
本物
こんどもの

（3） お父さんだって、多少後ろめたい気持ちがあるから、ああやって、あっさり、話を引っ込めたんじゃないのかしら。　　あなた

「こ／そ／あれ」「こ／そ／あの」に比べ、「こ／そ／あんな」「こう／そう／ああ」はまだ定着が悪く、例えば、「そんな」を「その」と聞く間違いが多かった[15]。また、「こういう」を「こいう」と聞くのも同様に多かったが、これは単なる表記上の誤りなのか、知らないために聞いた音をそのまま表記して間違ってしまうのか、判断がつかない。

3．1．2　形式名詞の誤聴

（4） 追い打ちかけるようなこと、言わないでよ。

かける　X　こと

かけない　　こと

（5） お母さん達に紹介できないような人？

紹介できない　X　人

紹介できない　の　人

紹介できない　あの　人

（6） 私ね、渉のそういうさっぱりしたところ、好き。

さっぱりした　こと

さっぱりした　性格

とにかく「ような」が聞けない。この「ような」は婉曲の機能で意味に大差のない場合が多いが、いつもそうではない。

a）盗みをはたらいたような心のとがめを受けた。

b）盗みをはたらいた心のとがめを受けた。

「ところ」は、「～スル／シタ／シテイル　ところだ」という使い方では慣れていても、（6）のように、抽象的な箇所や部分をさす意味の「ところ」は不慣れのようだ。

3．1．3　連体助詞の誤聴

（7） 今年がだめでも、来年があるわ。私、待つの平気よ。

待つX

待つは

待つでも

（8）　……仕事が忙しいと思って、電話すんの、遠慮してたけど。

すんX

すんで

するんで

するんだ

（9）　男のあなたはいいわよ。まだ29だもの。

男なんだは

男ならと

男なったら

（9）「男のあなた」は、〰部の音が連続していて聞き取りが難しいということもあるが、同格の「の」に慣れていないことが大きいように思われる。

3．1．4　格助詞の誤聴

(10)　大人社会で、えー、人間を見る、見られる、ようになると思うんですね。

ようXなる

(11)　土曜日のことなんだけど、仕事になっちゃったの。

仕事Xなっちゃった

仕事をなっちゃった

仕事　のっちゃった

(12)　どっちにしても、おれ全力投球したんだし、……。

どっちXしても

(13)　お母さんって思ったよりずっと進んでるのね。

思って X ずっと

思っているずっと

「～になる／する」((10) ～ (12)) の「に」を落として聞いてしまう誤聴は非常に多く、ゆっくり、はっきり「に」と発音されている「に」でも、ちゃんと聞けている例は実に少なかった。音としては、「に」がはっきりと発音されることはまずなく、「ん」になったりして前後の音に融合することが多いが、頭の中の文法がしっかりしていれば、「に」を落とすことはありえない。

「より」((13)) はよく知っていても、「名詞＋より」ではなく、「思った＋より」となると、聞けなくなる。ほとんどの学生が、拍数が同じである「思っている」と聞いていた。

3．2　接続部

3．2．1　「って」の誤聴

(14)　一時、締め切りに間に合わないかって、あせっちゃってさ。

間に合わなかった

間に合わない X

(15)　用があるって、仲間の誘い断わっておいてデートしてるんだもんなあ。

とか

ので

が

X

(16)　この人が特選とったってことは、我々仲間の誇りだし励みでもあるの。

とった X ことは

(17)　パーティーしようって約束、破ってしまってごめん。

しよう X 約束

「って」には、主に「と」、「という」、「というのは」があるが、そのうち、「と」が「って」になるということはかなり定着しているが、「という」、「というのは」はまだ難しいようで、(16)(17)のように「という」でつながる場合、「って」の部分を聞き落としてしまう。また、「と」に続く「言う」「思う」等の動詞は省略されることがよくあるが、中・上級になってもそれを知らない学生は多い。すると、(14)のように、「間に合わないかって」を「間に合わなかった」と聞いてしまう。あるいは，(15)のように、「って」の部分を聞き落とす傾向が多く見られる。これは話しことばに限らず、書きことばにもよく出て来るので、指摘する必要がある。

また、「って」を「で」と聞く、音の聞き誤りも原因していることもある((15)で「ので」と聞いてしまう場合)。

3．2．2　「たら」の誤聴

(18)　朝方まで仕事してたら、寝坊しちゃった。

仕事してる

仕事してるん

仕事してるので

条件を表さない「たら」はその使い方があまり習得されておらず、従って、前後がつながらないにもかかわらず、「仕事してる」としたり、考えた学生は音とは違うが、「ので」でつじつまを合わせている[16)]。

3．2．3　「ては」の誤聴

(19)　そんなこといちいち観察しながら食べてちゃ、食った気しないんじゃないの？

食べちゃう

食べれ

食べた

(20)　そんなに忙しいんじゃ、初詣にも行けないんじゃない？

忙しいん　X

忙しい　X

(21)　何言ったんだか覚えていないんじゃ、仕方ないわね。私、帰る。

X

条件の「ては」は、「～てはいけない」や「～ては困る」といった決まった表現では知っていても、「ては」としては、中・上級でもあまり教えられていないように思う。さらに、話しことばでは、例のように縮約形となって現れることが多く、いっそう聞き落とすことになってしまう。

3．2．4　「たって」の誤聴

(22)　社会復帰したいなあって思ったってね，そうそう簡単に受け入れてくれる所なんかないのよ。

思ったった

思ってて

思ったんですね

「ても」は知っていても、「たって」は知らない学生が多い。

3．2．5　「まま」の誤聴

(23)　そういう機会がないまま、大きくなってしまう、と思うんですね。

もの

まもう

3．3　文末部

3．3．1　ヴォイスに関する誤聴

(24)　ごめん。そう言われればそうかな。

言われば

(25)　お互い会いたい時に会えれば、それでいいじゃないか。

会いれば

会えば

会れば

(26)　これもやっぱ、昔じゃとても考えられなかった考え方だろうと思うんですね。

考えなかった

(27)　戻りましたら、こちらから連絡させましょうか。

連絡しましょうか

これらの助動詞の誤聴を見てみると、可能形を聞き取れない誤りが多いのに気付く。文脈を追ってくると，われわれは、可能形が使われるであろうと思って聞くときに、学習者は普通の形で聞いてしまう。「可能」の意味がある場合に可能形を使うといった説明ではなく、われわれがどんな場合に可能形をより使うのか、他のどんな形と共に使うのかといった説明をする必要がある。

3．3．2　アスペクトに関する誤聴

(28)　でき上がったの昼過ぎてたからね。

昼過ぎた

(29)　それがさ、特選とるなんて想像もしていなかっただろう？

想像もしなかった　　だろう

(30)　ああ、今夜がイブだなんて、けろっと忘れてた。

忘れた

この間違いは上級の学生の間でも非常に多かった。これら「～ていた」を「～た」と聞いてしまっても，大意をとるのには困らないが、やはりそこには意味に違いがある。そしてその意味の違いを理解していないがために、文脈を追って聞いてきても、間違って聞いてしまうのであろう。そしてそれは発話、作文においても間違って使われることが予想される。

3．3．3　「～そうだ」に関する誤聴

(31)　今日はね、何だかどんどん飲めちゃいそう。

飲みちゃいそう

飲みたい

(32)　おれも頭かたいって言われそうだけど、一人暮しするの反対だな。

言うそうだけど

言いそうだけど

「～そうだ」に前接する形は、能動の形をまず習うためか、文脈を追って聞いてきても、受身の「言われ」((32)) よりもむしろ、よく知っている「言い」あるいは意味が違うにもかかわらず「言う」と聞いてしまう。

また、「～そうだ」が第三者のことについての話し手の推量、判断を表すものであり、従って、自分自身のことについて言う場合には、普通は意志を表す形は来ず、非意志形（いわゆる無意志動詞、意志動詞の受身形、可能形など）がくるということをしっかりと押さえておかねばならない。(31) において、音としては「飲みちゃいそう」により近い発音になっているかもしれない。だから学習者が「飲み」と聞くのは正しい、あるいは、そう聞いても仕方がない、ということにはならない。なぜなら、われわれは「/nom＊/ちゃいそう」の「＊」が、/a/、/i/、/u/、/e/、/o/のどの母音であろうと、/e/に聞くからである。そして、そう聞けるようにする文法力を養っていかねばならないと考える。

3．3．4　「のだ」の誤聴

(33)　そんなことといちいち観察しながら食べてちゃ、食った気しないんじゃないの？

しないXじゃない

(34)　こういう統計がある以上、

いちおう7、8時間なんて考えたらいいんじゃないでしょうかね。

いいXじゃないでしょうかね

(35)　どうせもらうんだったら、ダイヤとか、誕生石ルビーだっけ？

そういう方が、本当はうれしいんだろう？

うれしいXだろう

(36)　井上さんのこときらいではないんだけど。

きらいではない X けど

きらいではないXだけど

(37)　童話の挿絵がやりたいんだっけ？

やりたいXだっけ

いつ「ん」を入れて、いつ「ん」を入れないのかということについて、学習者ははっきり知らない。そして聞けないでいる。逆に、「ん」のないところに「ん」を聞いてしまうことも見られた。「のだ」が「説明」を表わすという説明だけでは不十分なのではないかと思う。また、(37) で「やりたいだっけ」という結び付きはないという、「～っけ」に続く形の上からの制約も押さえておかねばならない。

3．3．5　「わけだ」の誤聴

(38)　お見合い断わったからって、支店長のお父さんの立場が
悪くなるわけじゃないでしょう
悪くなる X じゃないでしょう
悪くない　　じゃないでしょう
悪くないだけじゃないでしょう

(39)　金のために、今度の賞にかけたわけじゃない。
かけた X じゃない
かけたら　じゃない
かけただけじゃない

基本的な「わけだ」には比較的慣れていても、「わけじゃない」と否定になると、「わけ」を聞き落としてしまう。(38) のように、「～からといって～わけじゃない」という文型で押さえることも必要だ。

3．3．6　「ものだ」の誤聴

(40)　3年も待たしちゃったもんな。
待たしちゃったも
待たしちゃったな

3．3．7　補助動詞の誤聴

(41)　私、家庭と仕事両立させていく自信ないし、それにね、……。
X
くる

(42)　ちょっとお母さん、お父さんに報告してくるわね。
報告してくれる
報告してくれよ
報告してくらいね

3．3．8　「(疑問詞) ～か」の誤聴

(43)　正直言って、何言ったんだか、全然覚えてないんだ。
言った
言ったん
言ったんだ

(44)　いや、怒ってるんじゃないかと思ってさ。
　　怒ってるんじゃないXと
　　怒ってるXじゃないXと

疑問詞を含んだ節では「か」が必要なことは知っているはずであるが、聞き落としが非常に多かった。また、(44) は3．3．4の「のだ」とも関連する問題であるが、「～んじゃないかと思う」という形で、「か」が必要だということを押さえて教える必要があろう。

3．3．9　終助詞および終助詞化している助詞の誤聴

(45)　A：今朝はな、お母さん、これだぞ。
　　B：ううん？どうして？私ちゃんと12時までに帰って来たわよ。
　　の

(46)　森の入口に冬季休業中って書いてあったけども。
　　から
　　だろう
　　X

(47)　去年のクリスマスはボンでささやかなクリスマスの
　　プレゼントの交換してたのにね。
　　した　ん ね
　　した　の ね
　　してる ん ね
　　してた わ ね

終助詞化している「けど」が聞き取れていないのが目立った。

また、「のに」についても同様で、前件だけで、後件が省略されてそこで終わる、つまり終助詞化している (47) のような言い方は、話しことばではしばしば使われるが、「PのにQ」しか勉強していないと、「のに」を切り取って聞くことができない。従って、「去年のクリスマスはボンでささやかなクリスマスのプレゼントの交換してた」ということは理解できても、「それなのに今年は交換していない」ということまでは理解が及ばない。

3．4　取り立て助詞の誤聴

取り立て助詞は，その現れる位置が様々で、文を構成する成分と成分の間などあちこちに入ってくる。特に、複合的な述語の成分間に割り込んでくる場合、難しい[17]。

3．4．1　「なんて」の誤聴

(48)　ともこさんから電話があって、……　どうしてるかなあなんて言ってたから。

X

何て

なんで

なん

(49)　渉から電話もらうなんて久しぶりね。

もらうなんです

もらう何で

もらうんて

もらうって

(50)　A：おもしろいですね。

B：えー、眠りに二種類あるなんてのはね。はい。

あるなんですね

あるなんだろうね

あるなんかですね

(51)　子供たちが、まんが読ませてとか、あのー、ゲームやらせてなんて、よく遊びに来るんですが、

X

とか

「なんて」および、次の「なんか」は、どちらかというと話しことばで使われる語であり、われわれ教師側がまだ十分な研究をしていない分野であるように思う。これを知らない学生は多く、「なんて」を「何て」と思ってしまう。また、「なんて」の類の取り立て助詞の場合、もとの格助詞が隠れるので難しい。なかでも（48）のように「と」に代わる「なんて」が難しいようだ。さらに、「言う、思う」等が同時に省略される（(51)）と、いっそう難しくなる。

3．4．2　「なんか」の誤聴

(52)　あんたになんか、何も分からないんだから。

何で

X

(53)　A：怒った方がいいですか。

B：いや、怒られたくなんかないよ。

怒られたく　X　ないよ

怒られたく　なく　ないよ

怒られる　なんかないよ

(53) のように、述語成分の間に割り込んでくる取り立て助詞は非常に難しい。

3．4．3　「は」の誤聴

(54)　井上くんとはいつ？

とXいつ

(55)　ふたつの異なる睡眠状態の他に、眠りとは違う、覚醒という状態があることがわかります。

眠りとX違う

3．4．4　「でも」の誤聴

(56)　あなた、誰かおつき合いしている人でもいるの？

誰かおつき合いしている人　X　いるの

が

3．4．5　「とか」の誤聴

(57)　ちょっとイヤリングを落としたとかで、探さしてもらってたんだけども。

落としたとこで

落としたどこで

落とした　X　で

「とか」は、「A とか B」のように、同じ類に属する二つのものを並べるのをまず習う。(57) のように取り立てた部分をぼかす意味の「とか」は不慣れのようだ。

3．5　その他の誤聴

3．5．1　倒置に関する誤聴

(58)　ありがとう、覚えといてくれて。

ございました

(59)　つき合ってんだろう、彼と、ずっと前から。

かって

X

(58) の場合、「覚えといてくれて」と、縮約形になっている点で困難ではあるが、倒置に慣れていれば、「ありがとう」の後だから「ございました」(18人中12人) だという短絡的な聞き方はしないであろう。

3．5．2　省略に関する誤聴

(60)　一時、締め切りに間に合わないかって、あせっちゃってさ。

あせっちゃった

(61)　ですから、ご遠慮を。

ご遠慮X

話しことばでは、倒置ではなく、後続部分が省略されていると考えられる「て」形で、文が終わることがたびたび観察される。自らの発話を内省してみても，やはり「て」形で文を終えることがしばしばである。そのことを教えておかなければならない。

また，述部を省略して補語（名詞＋格名詞）だけを言う場合に，名詞だけで格助詞を聞けないことが多い。

3．　おわりに

本稿は、筆者が3コースで扱った、テレビドラマとニュース番組の特集という、限られたものの聴解の部分ディクテーションをもとにした「誤聴」分析であり、全てを網羅しているとは言えないものではあるが、しかし、ある程度の傾向は窺えると思われる。ここで明らかになった誤聴は、形式名詞、補助動詞などのいくつかの項目については、水谷（1980）の指摘にもあるように、まさに中・上級の文法項目であって、中級Ⅰ聴解コースの学生がまだ十分には習得していない項目であったかもしれない。しかし、上級レベルの学生でもやはり同じように誤聴をしており、それは、われわれ教師の側でまだ十分な意味記述をしていないもの、あるいは文法項目としてはそれぞれ初級のものでありながら、それらが組み合わさると高度になるといったようなもので、教師がそのことを認識していないということであるように思う。

また、「誤聴」を分類する際に、非常に乱暴に形態面で分けたが、意味、機能面でながめ直してみると、ムードを表す部分の表現に弱いということが見えてくる。ムードを表す表現は中・上級の文法の中心的学習項目であるが、話し手が事態・叙述内容に対して、あるいは聞き手に対して、どのような気持ちを表しているのかという、機能別にまとめて教えていく必要があるのでなかろうか。

例えば、不確かさを表したいときに、「～だろう」、「～かもしれない」等の助動詞を使った表現の他に、「～じゃない」「～んじゃない」、「～んじゃないかな」、「～んじゃないかと思う」、などの言い方があるが、では、ある状況においてどれを使うのが最も自分の気持ちを言い表すのに適当か、という視点での説明をしなければならないと考える。ここで概観してきた誤聴は、学生がテープを何度も何度も気の済むまで聞いた、頭の中に持っている文法知識を使って聞いた結果の誤聴であり、従って、単に間違って聞くというだけでなく、話す、書くといったプロダクションの面においても、誤用あるいは非用となって出てくる可能性があるものだからである。(概観してきた「誤聴」は、便宜的ではあるが、最後に表にしてまとめておいた。)

なお、今回は誤聴例をあげて、表面的に分析しただけで、それらがなぜ起きるのか、さらには誤聴を通して明らかになった中・上級の文法の困難点と思われるものについてのより詳しい分析、およびそれら文法項目の意味記述について立ち入る余裕がなかった。これからの課題とし、それを教材に生かしてゆけるようにしたい。

注

1)「誤聴」分析という用語は筧(1971)も使っている。

2)何が初級の文法で、何が中・上級の文法かということは、その境界をはっきりさせることのできるものではないが、ここでは北條(1989)が示しているような、一般に考えられている初級の基本文型を終えた次の段階とする。

3)91年秋期コースからは、技能別クラスとして、聴解Ⅰ、Ⅱ、Ⅲという講座制になった。

4)Oller(1972)(1973)(1974)は、ディクテーションおよびリスニング・コンプリヘンションが、クローズテストと共に、学習者の内在化された文法力ひいては総合力を最も反映しているとしている。

5)プレースメントテストは、語彙、聴解、文法、読解、文字の5つの項目から成っていて、それぞれ30点満点の計150点である。たまたま3コースとも同じ版のプレースメントテストを使用しており、中級Ⅰは、64点から84点までの得点をした学生である。ただし、91年春期は72点から84点になっている。なお、91年秋期コースからは、聴解の得点だけで、技能別クラスー聴解Ⅰ、Ⅱ、Ⅲに分けている。

6)その他、歌、漫画、落語等も扱ったが、これらについては宿題を出さなかったので、「誤聴」分析の対象ではない。

7)『東芝日曜劇場』1987年2月1日放送

8)『ニュースステーション』1990年6月14日放送

9)『ニュース23』1990年8月1日放送

10)『ニュースプラス1』1990年10月25日放送

11)『月曜・女のサスペンス』1990年12月10日放送

12) NHK、『ニュースステーション』から

13)『ニュース23』1991年5月9日放送

14)『ニュース23』1991年5月8日放送

15) 小林（1987）は作文における「そんな」の非用を指摘している。

16) 条件を表さない「たら」については、戸村（1987）に研究がある。

17) 取り立て助詞の現れる位置については、寺村（1981）が概観している。

参考文献

1．池田裕（1989）「誤用分析からみた文法の定着度」日本語教育学会　第6回研究例会発表要旨

2．筧寿雄　他（1979）「誤聴分析」『大学英語教育学会紀要』10号

3．川口義一（1984）「発音と聴解の指導－上級レベルでの問題点－」『講座　日本語教育』第20分冊　早稲田大学語学教育研究所

4．＿＿＿＿（1986）「中級教科書の語彙・文型」『講座　日本語教育』第22分冊　早稲田大学語学教育研究所

5．川本喬（1980）「中級段階の内容について」『講座　日本語教育』第16分冊　早稲田大学語学教育研究所

6．神田紀子　他（1991）「ディクテーションを用いた聞き取り指導」『日本語教育論集』第2号　名古屋大学日本語学科

7．北條淳子（1989）「中・上級の指導上の問題」『講座　日本語と日本語教育』第13巻　明治書院

8．小林典子（1987）「外国人日本語学習者による副用語の誤用－誤用例の分類の試み－」『日本語教育論集』3号　筑波大学留学生センター

9．立松喜久子（1987）「聴解教育とその教材作成法」日本語教育学会　第2回研究例会発表要旨

10. 寺村秀夫（1979）「ムードの形式と意味（1）－概言的報道の表現－」『文芸言語研究　言語篇』第4巻　筑波大学

11. ＿＿＿＿（1980）「ムードの形式と意味（2）－事態説明の表現－」『文芸言語研究　言語篇』第5巻　筑波大学

12. ＿＿＿＿（1981）「ムードの形式と意味（3）－取り立て助詞について－」『文芸言語研究　言語篇』第6巻　筑波大学

13. ＿＿＿＿（1984）『日本語のシンタクスと意味Ⅱ』くろしお出版

14. 戸村佳代（1987）「条件を表さない「タラ」について」『日本語教育論集』3号　筑波大学留学生センター

15. 豊田豊子（1976）「本校の学生の作文にみられる誤りの傾向の調査」『日本語学校論集』3号 東京外国語大学外国語学部附属日本語学校
16. 野田尚史（1989）「文構成」『講座　日本語と日本語教育』第1巻　明治書院
17. 水谷信子（1980）「中・上級の話しことば教育」『日本語教育指導参考書　7　中・上級の教授法』国立国語研究所
18. 吉田一衛　編集（1984）『英語のリスニング』大修館書店
19. 日本語教育学会（1978）「特集　文法上の誤用例から何を学ぶか」『日本語教育』34号
20. 日本語教育学会（1978）『日本語教育辞典』
21. 日本語教育学会（1991）『日本語教育機関におけるコース・デザイン』凡人社
22. Oller, John W. Jr.（1972）"Induction, mind and contextualization of materials to be learned", Language and Man
23. _____（1973）"Cloze Tests of Second Language Proficiency and What They Measure", Language Learning, 23, 1
24. _____（1974）"Cloze, Dictation, and the Test of English as a Foreign Language", Language Learning, 24, 2

表

誤聴の起きている位置	文法カテゴリー	文法上の困難点
修飾部	指示詞	こんな／そんな／あんな こう／そう／ああ
	形式名詞	ようなN ところ
	連体助詞	〈同格の〉NのN Vの
	格助詞	に（する／なる） Vより
接続部	接続助詞	ってV／ってN 〈条件ではない〉たら ては たって まま
文末部	ヴォイスの助動詞	可能、受動、使役態
	アスペクトの助動詞	～ている／～ていた
	補助動詞	～ていく／～てくる
	ムードの助動詞	そうだ のだ わけだ ものだ
		（疑問詞）～か
	終助詞（化している助詞）	終助詞 けど、から、のに
取り立て助詞	取り立て助詞	なんて なんか は でも とか
その他	倒置 省略	

［資料１］

（３）

今日子：おはよう。

父：　おはよう。

今日子：朝方まで仕事してたら、寝坊しちゃった。お昼過ぎまで、コーヒー一杯でもたせなきゃ。

父：　今朝はな、お母さんこれだぞ。

今日子：ううん？どうして？私ちゃんと12時までに帰って来たわよ。

父：　いやあ、何だか知らんがな、ほら、おみおつけのお豆腐のさいのめ、今朝のは、あらいんだよ。

今日子：そう。

弟：　そんなこといちいち観察しながら、食べてちゃ、食った気しないんじゃないの？

母：　おはよう。

今日子：おはよう。

母：　あなた、夕べ、ともこさんと一緒だったんですって？

今日子：あっ、ああそうよ。

母：　そう。何の用？

今日子：不倫してるんだって。

うそよ。冗談よ。ちょっとね、仕事の悩みごとがあったの。

母：　変ね。ともこさんって二人いるの？あなた。

今日子：えっ？

母：　いや、夕べね、ともこさんから電話があって、あなたとしばらく会っていないけど、どうしてるかなあ、なんて言ってたから。あなたね、もうあなたも大人なんだから、私達とや

かく言うつもりはないけれど、でも、うそはいけませんよ。あなた、まさか...。

今日子：ん？

母：　妻子あるような人とおつき合いしてるんじゃないでしょうね。

今日子：あっ、いやあだ、何言い出すかと思ったら。そんなことは絶対にしてません。

母：　そう、そんならいいけど。このあいだのお見合いも、あなた断わったでしょ。